

ナツパとホイ？いいえ菜覇様と魔導神です

超アルティメットサイヤ人ゴッド∞

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

時は現代、全次元世界の中のとある世界に二人の最強の戦士が居ました。

その内一人は頭が禿てて髭を生やした悪人面の男

もう一人は赤い肌に白髪の小柄な老人

それぞれナツパとホイという名前です。

しかし悪人面をしている禿げ頭の男性は実は弱気を助け悪を正すことを信念とした正義感に満ち溢れた漢で

もう一人の老人は悪事、特に破壊や殺戮を好みそれを余興の如く楽しむ卑劣な老人で

そんな二人は悉く対立するのです。

# 目次

ナツパとホイ？ いろいろ菜覇様と魔導神です

1

ナツパとホイ？いいえ菜覇様と魔導神です

時は現代、全次元世界の中のとある世界に二人の最強の戦士が居ました。

その内一人は頭が禿てて髭を生やした悪人面の男

もう一人は赤い肌に白髪の小柄な老人

それぞれナツパとホイという名前です。

しかし悪人面をしている禿げ頭の男性は実は弱気を助け悪を正すことを信念とした正義感に満ち溢れた漢で

もう一人の老人は悪事、特に破壊や殺戮を好みそれを余興の如く楽しむ卑劣な老人で

そんな二人は悉く対立するのです。

しかしその二人の間を割って入れるものは誰も居ませんでした。

それはゴールデンフリーザであれ合体ザマスであれ破壊神であれ天使であれ本気になったジレンであれ身勝手の極意を完全に極めた孫悟空であれ大神官であれ果ては全王であれ

それらをいとも容易く圧倒的に凌駕する二人の力の前では塵芥も同然なのでした。

そのことについて二人はこう述べました。

ホイ「当然の結果じゃろう？ワシを止められるのはワシが唯一ライ

バルと認めるナツパだけじゃからな」

ナツパ「奴を止められるのは俺だけだ 巻き込みたくないから他のものは下がって欲しい」

しかしこの二人が力をぶつける度に世界の壁を越え、別の世界の強者達が惹かれるように二人の闘いに割って入ろうとする者の後が立たないのでした。

実際は割って入るところが二人の闘いの余波によって乱入して来る者は瞬時に消し飛ばされます。

ホイ「全く身の程知らずの愚か者共は・・・命はいらないのか？」

そんな光景を見て魔導神は冷めたような目で憐れんだかのような発言をしますが、実際はただ呆れているだけでした。

ホイ「ワシとナツパの神聖なる闘いを邪魔するものは容赦せんぞ」

悟空「お、ナツパ様じゃねえか」

ナツパ「む、孫悟空にジレンか久しぶりだな」

ジレン「ナツパ様 俺とも闘って貰うぞ」

そして孫悟空とジレンはナツパ様に闘いを挑もうというのですが

ホイ「この身の程知らずの小童共が！ ワシに傷一つ付けられん砂利の分際でナツパに戦いを挑むなど自惚れも大概にせい！」

ゴオオオオオッ！

悟空「うわああああつ!？」

ジレン「ぐっ・・・何という凄まじい気だというのだ!? 全く以て計り知れん・・・!」

ホイが手加減をしまくって軽く威圧しただけにも関わらず悟空とジレンは大きく吹っ飛ばされ、周囲の宇宙は悲鳴を上げたかのように大きく振動し、崩壊していくのでした。

ナツパ「すまん悟空にジレン・・・お前達ではホイに敵わない それに今いるやつはオリジナルじゃない」

悟空とジレンを吹き飛ばしたホイはオリジナルではないとナツパ様は言いました。

ホイが自身の力の極々一部の力を込めて創った謂わば分身といったところですがそれでも各世界の強者を上回る強さがあるのでした。

合体ザマス『神とは正義であり絶対な存在・・・神ですらないお前達が易々と踏み込んでいい領域ではない!』

合体ザマスは神こそが絶対の存在であると主張し、ナツパ様と魔導神（分身）の前に現れたのでした。

ホイ（分身）「貴様が絶対じゃと? フン ワシからすれば貴様は超ドラゴンボールが無ければ孫悟空の身体を奪ったり不死身の肉体を手に入れることも人間0計画を行う事すら出来なかった3流以下の神気取りの虫けらじゃわい」

ホイ（分身）は現れたザマスに侮蔑の感情を込めて言い放ちました。

合体ザマス『私に対しその様な罵詈雑言は万死に値する！私は何れ全王を超える神となり、全宇宙の生命の生殺与奪権を握るのだ！』

ホイ（分身）の言葉に激怒しながらもザマスは己が野望を口にしました。

ホイ（分身）「全王を超えるじゃと？笑わせる・・・全王「如き」越えられん貴様がワシらに盾突くとはいい度胸じゃわい」

合体ザマス『黙れ黙れ！私が裁いてくれる！絶対の雷!!』

合体ザマスは光輪から紫色の雷を放ち、ホイ（分身）に直撃した。

合体ザマス『ハハハ 今のはかわせなかつたようだな！だがまだまだだ！裁きの刃！』

続いて合体ザマスは無数の赤い針状のエネルギー弾を形成し放ち、ホイに全弾直撃した。

合体ザマス『偉そうなことを言ってる割には大したこと無いな！やはり神こそが絶対・・・私こそが絶対なのだ！』

攻撃を避ける事も防ぐ事もせずただくらつているホイに対し、勝ち誇るのです。

合体ザマス『消し飛ぶがいい！聖なる逆鱗!!』

そして合体ザマスは灼熱の太陽を思わせる巨大なエネルギー弾を放ち、それもホイに直撃し大爆発を起こした。

ナツパ「……………」

ナツパ様はその光景をただ黙って観ていました。

合体ザマス『ハハハ どうだ思い知ったか！この私を侮辱するからこうなるのだ！どうしたその禿げ頭は ライバルの死に呆然としているのか？安心しろ直ぐに私が葬ってやるとしよう 私を虚仮にした馬鹿の下にな！』

合体ザマスは完全に勝ち誇った様子でナツパ様に言い放ちました

「馬鹿は貴様じゃ」

合体ザマス『え？』

合体ザマスは声がしたところをゆっくり振り向くと……

合体ザマス『そ……そんな……馬鹿な!?!』

煙の中には全く無傷のホイが姿があり、ホイは煙を吹き飛ばしました

ホイ「何を驚いておる？当然のことじやろう それとも何だ？貴様如き虫けらの攻撃がワシに通じると本気で思っていたのか？そして今のが全力か？」

合体ザマスは啞然としていました。自身の全身全霊の攻撃がホイには全く通じなかったのですから……

ホイ「知つとるか？ワシは身の程知らずの雑魚にナツパとの闘いに割って入ろうというのが大嫌いなんじや！貴様に裁きを下してくれ



る！」

ホイは指先に黒い球を出して、合体ザマスに向け撃ち出したので、しかも速度が光速を軽く超えていたので避けることが出来ませんでした。

合体ザマス『これは・・・破壊か？だが無駄だ・・・私は不死身だ！決して死なぬ！』

黒い球は膨張し合体ザマスを飲み込むも合体ザマスは平気な顔をしました

ホイ「無駄じゃ 不死身如き問題じゃないわ その弾に飲まれたものは全ての能力を奪われ」

合体ザマス『何だと!?!』

ホイ「そして魂、存在毎破壊されるのじゃ」

合体ザマス『い・・・嫌だあああああつ！私の野望がこんなところで!?!』

ホイ「滅ぶがいい」

合体ザマス『ぬわあああああああああああ!!』

合体ザマスは黒い球の中で消滅していき、黒い球も消えました。

ナツパ「恐ろしい技だな」

ホイ「貴様には通じんだろうが！」

どうやらナツパ様はホイのこの攻撃を無効化するようです。

ホイ（もつともこの程度の攻撃等技の内に入らんがな）

ホイの中ではこの攻撃は技に入らないようです。

ホイ「邪魔が入って興ざめじゃ　ワシは帰らせて貰うぞ」

ホイは今日の所は引き上げるとナツパ様に言いました

ナツパ「む、そうか　なら魔導神ホイよ聞こえるか？　貴様は俺が止めてやる！」

ホイ「ああ分かっておる・・・また会おう」

そう告げると分身は煙となって消えました

多元宇宙の何処か

巨大な古城のような建物・・・

その一室で立派な椅子に腰を掛け水晶を見ている赤い肌で白の長髪の巨乳の美女が居ました。

女性の名はナツパ様の因縁のライバルにして森羅万象を知り尽くした魔と混沌を司りし全知全能の魔導神『魔導師ホイ』で小柄な老人の姿をした方のホイは女性が生み出した分身です。

ホイ「全く・・・ザマスを始末したのはこれで何度目になるじゃろうか・・・数えるのも手加減をするのも面倒臭いわい・・・　本体の

ワシが直々行くと全平行世界を崩壊させてしまう……」

彼女の力は想像を絶する程強大であり、普段は彼女本体は城に籠り分身を生み出して悪事を行わせています。

しかし分身程度では当然ナツパ様には勝てないので時々闘う時は彼女自身が出向き、ナツパ様と熾烈な激闘を度々繰り広げるのです  
が……

ホイ「孫悟空にジレンも確かに腕を上げておる……それは認めよう じゃが分身のワシが放った殺気にひるむ程度じゃワシらには遠く及ばぬ 嵐の中に蟻が飛び込むも同然じゃ」

ホイは孫悟空やジレンの実力を認めるも自身らには遠く及ばないと憐れんでいます。

ホイ「やはりワシと対等に闘り合えるのはナツパ 貴様だけのようじゃな……近々呼ぶとするか、絢爛豪華な料理を用意してな」

ホイは近々ナツパ様を呼び出すつもりようです。

悟空「ナツパ様、オラを鍛えてくれ！ オラももっともっと強くなりてえんだ！」

ジレン「プライドトルーパーの一員として強く在らねばならないから俺も同じだ！」

ナツパ「いいぞ！二人纏めて修行だ！」

ナツパ様は後任を育てる名目もあつてか二人を鍛えるようです。

